

令和 6 年度 獨協埼玉中学校 自己評価シート

目指す学校像	豊かな感性、健康な心と体を育み、自ら考え判断できる生徒を育てる。
--------	----------------------------------

重点目標	1. 中学3年間で身に着けるべき学習目標の達成に向けて教育内容の充実を図る。 2. SNSの利用に関して細かな指導を行い、同時に保護者への協力を依頼する。 3. 登下校時の安全とマナーの向上を図る。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (3月31日 現在)		実 施 日 令 和 7 年 4 月 5 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習、読書・新聞の時間、小テスト、補習など基礎学力の育成に向けて様々な取り組みをしているが、中学から高校への移行期の中だるみの傾向を改善する必要がある。 日常の学習習慣の定着。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の内容小テストの実施とその効果 興味を持ち自ら目標設定ができているか 検定試験の目標設定の明確化 学習習慣定着のための試みがなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習、小テストの実施方法、内容の吟味と日常学習の定着を促す。 ICTを活用した授業の取り組みを積極的に行う。 希望者に対して、授業の枠を外して、興味関心を抱くような課題提供を行う。 学年、教科ごとに検定試験の目標を明確にする。 SLCを積極的に活用し、学習習慣を定着させる。 もう少し知りたいと思うような、モチベーションアップにつながる授業の展開。 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な内容と、小テストに対するフォローができたか。 学習内容だけではなく、取り組む姿勢に対しても生徒と接点を持つことができたか。 より積極的に何かに取り組もうとする気持ちを育てることができたか。 検定試験の目標は明確になっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間が、小テストや自学だけでなく、読書など有意義な時間が取れた。 フォローが必要な生徒に課題を出し次のテストに向けて取り組ませた。 SLCを利用することで、定期テスト前の補習などは生徒の段階に応じた指導をすることができた。 また、自ら勉強に向かう姿勢も見ることができた。 対策プリント等を活用し、検定試験の目標が明確になった生徒が増えてきた。 	A A A B	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間を更に有意義なものにする為の工夫をする。 上位層にも更なるレベルアップを促す講習を実施できるようにする。 SLC利用についてはまだまだ、様々な可能性をもっているため、SLCスタッフの方々と協力していく。 検定試験問題に積極的に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習に読書を取り入れ、SLCの利用も積極的に行われており、評価できる。引き続き、取り組みを継続してほしい。 小さな積み重ねが、確実な学力向上につながるはずだから、今後は楽しみだ。 検定試験については、英検・漢検に加え、数学検定の実施も検討してほしい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の使用法やSNSによるトラブルが後を絶たない。公共の場での使用方法に対する指導も継続して必要である。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の使用実態の把握 SNSの利用法に対する指導状況とその効果の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内での携帯電話に関するルールの徹底と指導。 家庭での携帯電話の使用に関して保護者の協力を依頼。 携帯電話教室を開催し、主にSNSの利用について講義を行い考える。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSによるトラブルは減少したか。 校内・公共の場・家庭内における携帯電話使用のルールは守られているか。 携帯電話教室による効果の確認 	<ul style="list-style-type: none"> SNSでの大きなトラブルは減ってきている。 校内における携帯電話使用のルールは概ね守れたが、公共の場でのルールを守れなかった時もあった。 携帯電話教室を実施し、一定の効果は確認できた。 	B B B	<ul style="list-style-type: none"> SNSによるトラブルを防ぐため、日頃から折に触れ話をしていく必要がある。 保護者の方にも現状を理解してもらう必要があるので保護者会等で話をしていく。 学校の課題として、これからは携帯電話教室は継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSトラブルはなくなるだろうから、今後も家庭と学校から、きちんとルールを守るように指導を続ける必要がある。 家庭の協力が重要であるから、学校側とさらなる連携をしながら、指導を継続してほしい。 学校の課題というより、本来は保護者の問題だと思う。中学生の場合、スマートフォンは、学校の外で使用するものなのだから。
3	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の安全とマナーの向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の安全とマナーの向上を図る。 他者に配慮した行動がとれるよう、道徳心を育む。 積極的に挨拶する習慣をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> バスの乗車指導を継続する。 試験期間中の通学路での下校指導を継続する。 バスや電車内等、公共の場でのマナー向上に努める。 教員自ら積極的に挨拶を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗車指導、学校周辺での登下校指導を継続したか。試験中の通学路での下校指導を継続したか。 バスや電車内のマナーにかかわる苦情はなくなったか。 日常生活の中で、積極的に挨拶を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の指導は実施した。 徒歩での登下校時、バス・電車などで残念ながら苦情もあった。 学校生活の様々な場面で挨拶をする姿が見られるようになった。 	A B B	<ul style="list-style-type: none"> 下校指導はこれからも、継続していく。 公共の場でのマナー・集団心理等、粘り強く指導していく。学年だけでなく、部活動にも協力してもらおう。 生徒会に協力してもらいあいさつ運動を実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 上級生がお手本になるように、登下校のマナーを周知させる必要を感じる。 マナーについては、本当に残念な姿を見かけることが多く、粘り強い指導をお願いすることになり、保護者としては申し訳なく感じる。 電車の中や、歩きながらのスマホ使用は、他の人の迷惑となるのでマナーを守るように家庭・学校双方で指導を継続する。